

## アカデミー賞公認国際短編映画祭ショートショートフィルムフェスティバル &amp; アジア2023

## 各部門の公式審査員が決定！

【ライブアクション部門/ インターナショナルカテゴリー】

坂井真紀さん、萩原聖人さん、横浜聡子さん

【ライブアクション部門/アジア インターナショナルカテゴリー&amp;ノンフィクション部門】

アダム・トレルさん、松永大司さん、MEGUMIさん

【ライブアクション部門/ジャパカテゴリー&amp;

スマートフォン映画作品部門 supported by Sony's Xperia】

内田也哉子さん、ダグラス・モントゴメリーさん、山戸結希さん

米国アカデミー賞公認、日本発・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア（略称：SSFF & ASIA）2023」は、各部門の優秀賞が翌年のアカデミー賞短編部門へのノミネート候補となるライブアクション部門（インターナショナル、アジア インターナショナル、ジャパン）およびノンフィクション部門、および今年3年目を迎えるスマートフォン映画作品部門supported by Sony's Xperiaの公式審査員が決定したことを発表いたします。

国際的な視点をより多岐にとりいれるべく、ライブアクション部門/アジア インターナショナルの審査員がノンフィクション部門を、また、ライブアクション部門/ジャパンの審査員がスマートフォン映画作品部門supported by Sony's Xperiaをあわせて審査していきます。

## ■ライブアクション部門/インターナショナルカテゴリー審査員：

世界97の国と地域から応募のあった  
2099作品のうち、34のノミネート作品を審査

坂井真紀（俳優）/萩原聖人（俳優）/横浜聡子（映画監督・脚本家）



## ■ライブアクション部門/アジア インターナショナルカテゴリー審査員：

世界22の国と地域から応募のあった593作品のうち、  
23のノミネート作品を審査

## ■ライブアクション部門/ノンフィクション部門審査員：

世界59の国と地域から応募のあった290作品のうち、  
13のノミネート作品を審査

アダム・トレル（プロデューサー/配給）/松永大司（映画監督）/  
MEGUMI（女優、プロデューサー）

## ■ライブアクション部門/ジャパカテゴリー審査員：

応募のあった243作品のうち22作品がノミネート

## ■スマートフォン映画作品部門 supported by Sony's Xperia審査員

世界53の国と地域から応募のあった363作品のうち、16のノミネート  
作品を審査

内田也哉子（エッセイスト）/  
ダグラス・モントゴメリー（グローバルメディアの専門家）/  
山戸結希（映画監督）

各受賞作品の発表は6月26日（月）に開催のアワードセレモニーにて発表。  
ライブアクション部門の3カテゴリー（インターナショナル、アジア インターナショナル、  
ジャパン）およびノンフィクション部門、アニメーション部門の各優秀賞受賞作品は翌年のアカデミー賞短編部門ノミネート候補として推薦され  
るとともに、その中からSSFF & ASIA 2023グランプリ＝ジョージ・ルーカスアワードを決定いたします。

<アワード構成図>

★  
グランプリ= ジョージ・ルーカス アワード

米国アカデミー賞公認の5部門：  
国際的、アジア、日本の3カテゴリーからなるライヴアクション部門およびノンフィクション部門、アニメーション部門の中からグランプリが決定。各優秀賞受賞作品が翌年のアカデミー賞短編部門へ推薦されます。

ライヴアクション部門



<その他のコンペティション(部門)・公募プログラム>



SSFF & ASIA 2023 ライヴアクション部門  
国際的カテゴリー審査員 (五十音順、敬称略)

坂井真紀 (俳優)

1970年5月17日生まれ。東京都出身。  
1992年、フジテレビ系ドラマ「90日間トナム・パパ」で俳優デビュー。1996年、映画『ユーリ』で映画初出演以降、多くの映画・TVドラマ・舞台に出演。2009年、第18回日本映画批評家大賞助演女優賞、第23回高崎映画祭特別賞（『実録・連合赤軍 あさま山荘への道程』(08)）を受賞。近年の主な映画出演作に『461個のお弁当』（20）、『痛くない死に方』『はるうるひと』『鳩の撃退法』『燃えよ剣』（21）、『そばかす』（22）がある。2023年には『ロストケア』『銀河鉄道の父』『逃げきれた夢』『水は海に向かって流れる』『春に散る』に出演する。

萩原聖人 (俳優)

神奈川県出身。1990年、ドラマ「はいすくーる落書2」で注目を集め、『学校』『教祖誕生』『月はどっちに出ている』（93）で日本アカデミー賞新人賞と話題賞、『マークスの山』（95）『CURE』（97）で同賞優秀助演男優賞を受賞。  
近年の主な映画出演作に『Fukushima50』（20）、『島守の塔』『今夜、世界からこの恋が消えても』（ともに22）など。6月に『スパイスより愛を込めて』『君は放課後インソムニア』の公開が控える。

横浜聡子 (映画監督・脚本家)

大学卒業後、一般企業に就職したのち、映画美学校入学。卒業制作の『ちえみちゃんとこっくんぱっちょ』が評価され、中編第1作『ジャーマン+雨』で2007年度日本映画監督協会新人賞を受賞。2009年、商業映画デビュー作、松山ケンイチ主演『ウルトラミラクルラブストーリー』を制作。  
近年は『パイプレイヤーズ』『有村架純の撮休』などテレビドラマも演出。2021年、地元の青森を舞台にした映画『いとみち』が公開。同作は第16回大阪アジア映画祭観客賞・グランプリをダブル受賞、他多数映画賞を受賞。2023年8月ディズニープラス配信作品『季節のない街』の演出を数話担当。現在長編作品の準備中。

## SSFF & ASIA 2023 ライブアクション部門

アジア インターナショナルカテゴリーおよびノンフィクションカテゴリー審査員 (五十音順、敬称略)



### アダム・トレル (プロデューサー/配給)

映画配給会社Third Window Films代表。日本およびアジア映画を、劇場公開作品の配給やDVD販売を通じて100作品以上をイギリスをはじめとした世界の人々に紹介している。共同制作作品は『希望の国』(園子温監督)。プロデューサー作品は『福福荘の福ちゃん』(藤田容介監督)、『下衆の愛』、『獣道』(内田英治監督)『ばるばる』(手塚真監督)がある。日本の大ヒット作品『カメラを止めるな!』の海外セールスもある。



### 松永大司 (映画監督)

長年の友人であった現代アーティストのドキュメンタリー映画『ピュ〜びる』(11)で映画監督デビュー。初の長編劇映画『トイレのピエタ』(15)では第56回日本映画監督協会新人賞等を受賞。THE YELLOW MONKEYのドキュメンタリー映画『オトキ』(17)、村上春樹原作『ハナレイ・ベイ』(18)、『Pure Japanese』(22)と作品を発表している。短編作品としては「ウタモノガタリ-CINEMA FIGHTERS-」企画『カナリア』。「アジア三面鏡」企画第二弾『碧朱』。「その瞬間、僕は泣きなくなった-CINEMA FIGHTERS project-」企画『On The Way』などがある。今年2月公開の新作『エゴイスト』は、第16回アジア・フィルム・アワードをはじめ海外の映画祭でも高い評価を得て台湾、北米、香港、韓国などでも上映が決定。



### MEGUMI (女優、プロデューサー)

1981年9月25日生まれ、岡山県出身。映画『台風家族』(19)と『ひとよ』(19)の演技が評価され、第62回ブルーリボン賞助演女優賞を受賞した。近年では映像作品のプロデュースにも活躍の場を広げている。映画『零落』(23/プロデューサー)、テレビ東京「完全に詰んだイチ子はもうカリスマになるしかないの」(22/企画・プロデュース)「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア2022」オフィシャルコンペティションノミネート作品『LAYERS』(22/企画・プロデュース)

## SSFF & ASIA 2023 ライブアクション部門

ジャパンカテゴリーおよびスマートフォン映画作品部門 supported by Sony's Xperia 審査員 (五十音順、敬称略)



### 内田也哉子 (エッセイスト)

1976年東京生まれ。エッセイ執筆を中心に、翻訳、作詞、音楽ユニットsighboat、ナレーションなど、言葉と音の世界に携わる。幼少のころより日本、米国、スイス、フランスで学ぶ。三児の母。著書に『新装版パーパムービー』(朝日出版社)、『会見記』『BROOCH』(ともにリトルモア)、絵本の翻訳作品に『たいせつなこと』(フレーベル館)、『岸辺のふたり』(くもん出版)など。映画出演作品に『東京タワー 〜オカンと、ボクと、時々オトン〜』『わが母の記』『Blue Wind Blows』『流浪の月』などがある。Eテレ『no art, no life』(毎日曜 8:55~)では語りを担当。



### ダグラス・モントゴメリー (グローバルメディアの専門家)

モントゴメリー氏は20年以上のメディアと小売業界での経験を持ち、ウォルマートストアズで新しく取得した海外小売を統合する仕事に従事する。その後、モンゴメリー氏は15年間、3つの異なる国(米国、日本、英国)でワーナー・ブラザーズ戦略アドバイザーとして勤務し、WBの経営陣や主要なパートナーに対するコンサルティングに携わる。さらに、氏は114年の歴史を持つ日米協会南カリフォルニア支部の会長を務め、マリー・コンドウと大谷翔平を「国際市民」として表彰するイベントを取り仕切る。2021年には、「グローバル・コネクツ・メディア」を設立し、社長兼CEOとして就任。グローバル・コネクツ・メディアは、クライアントが世界のエンターテインメントや小売市場にアクセスできるようコンサルティング、サポートする企業である。



### 山戸結希 (映画監督)

2012年、上智大学哲学科在学中に独学で映画『あの娘が海辺で踊ってる』を監督。2016年、映画『溺れるナイフ』が60万人以上を動員し、20代女性の監督作品において前例なき興行記録となる。10か国以上へとセールス。2018年、初の企画・プロデュースを務めた映画『21世紀の女の子』——“ジェンダーあるいはセクシャリティがゆらいだ瞬間”をテーマとしたオムニバスが、東京国際映画祭にて特別上映。2021年、ドラマ『生きるとか死ぬとか父親とか』にて、初のテレビドラマのシリーズ構成・監督を務める。RADWIMPS、乃木坂46、back numberら多数アーティストのミュージックビデオや、大手企業の広告映像を手がけ、ジャンルを超えたみずみずしい映像表現に定評がある。



<映画祭ポスタービジュアル>

### 【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2023 概要】

- 開催期間：6月6日（火）～6月26日（月）  
オンライン会場は4月27日（木）～7月10日（月）
- 上映会場：TORQUE SPICE & HERB, TABLE & COURT（渋谷）、  
二子玉川ライズ スタジオ & ホール、ユーロライブ、表参道ヒルズ スペースオー、  
赤坂インターシティコンファレンス、オンライン会場にて予定  
※開催期間は各会場によって異なります
- 料金：会場上映：無料（予約開始は4月27日～）一部有料イベントあり
- 一般からのお問い合わせ先：info@shortshorts.org
- 公式サイト：<https://www.shortshorts.org/2023>
- 主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会  
※新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、時期または内容を変更する場合があります。

### 【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショート実行委員会 担当：田中 TEL：03-5474-8201 / E-mail [press@shortshorts.org](mailto:press@shortshorts.org)

【本資料に関する画像については、下記よりダウンロードいただけます】

<https://drive.google.com/drive/folders/1BS1dnFjbx17qUleZgtTIFDj2TLZY3IsO?usp=sharing>